

2年2組 道徳だより

2年2組

主題名 あきらめないで 内容項目 希望と勇気、努力と強い意志
 教材名 「ぼくは「のび太」でした」P104～P.107
 ねらい 自分のやるべき勉強や仕事をしっかりと行おうとする態度を育てる。

①教材について

本教材は、漫画「ドラえもん」などの作者として知られる藤子・F・不二雄が、子供の頃からどんな思いで漫画を書き続けたかという内容である。題名にある言葉を思いながら、漫画を読む人のために粘り強く頑張ってきた主人公の努力を理解し、自分自身の実践意欲につなげたい。

②授業の様子

○発問1「手塚先生が漫画を1ヶ月もかけて書き写したときの気持ち」

- ・手塚先生に近づけた。
- ・こんなにできるなんて思わなかった。

○発問2「1000ページ描いても本にすときは300ページしか使われないことを聞いたとき、藤子先生はどんなことを考えたか」

- ・こんなしか使われないのか。
- ・がんばったのに。人を楽ませるにはこんなにしないといけないのか

○発問3「『子どもの頃、ぼくはのび太でした』という言葉に、どんな思いが込められているでしょうか。」

- ・自分もだめだった。不器用でのび太みたいだった。
- ・だけど、あきらめなかった。倍以上がんばった。

③振り返り

○あなたががんばったことや、これからもがんばりたいことはなんですか？

- ・画家になりたいから、これからもうまくかけるようにれんしゅうしたいです。
- ・つくし野マラソンをがんばった。ピアノでもうちよっとむずかしいきょくをひきたい。
- ・大縄をつづけてとべた。これからたいそうの空中逆上がりをできるように頑張りたい。

④担任より

発問3「『子どもの頃、ぼくはのび太でした』という言葉に、どんな思いが込められているでしょうか。」の時に、思っていたよりも子どもたちには難しい発問だったようで、「子の頃、できないことが多かった。」で終わってしまいそうになりました。ある子が「でも・・・」と言葉をつなげてくれたおかげで、本時のねらいに迫ることができました。

夢をもつことや夢を描くことは、気持ちが「快」になります。可能性が広がるからです。その夢に向かって動き出した時に、理想と現実のギャップを知り、夢に向かうことが途端に「不快」になることがあります。そうして、できない理由を探したり、並べたりするということもクリエイティブなことを通して、折り合いをつけて夢をあきらめてしまうことがあります。僕もありました。子どもたちにもきっとあると思います。

そんなときに、藤子・F・不二雄先生の「ぼくものび太でした」という言葉は、とても温かく、勇気をもたらえます。地道に努力をしてきたからこそその言葉に、励まされます。

夢をあきらめそうになったとき、藤子・F・不二雄先生の言葉や、今日の授業を思い出してくれたら嬉しいです。